

## 歴史を散歩すると 浪漫が広がる。

### 宗麟原供養塔

2万人といわれる合戦での両軍の戦死者。天正六年（一五七八）、日向全域を制圧した島津義久と豊後の大友宗麟が九州の覇権をかけて戦った。十萬騎に及ぶ激闘で、相当数の戦死者といえる。

農業大学の前から、西の方



向に約三キロ、かんかん原と呼ばれている。帯がその古戦場だ。この戦いに勝利した島津義久は、高城主山田新介に敵味方の区別なく手厚く葬るよう命じた。すぐに豊後塚が建てられ、両軍の戦死者を弔い、その後、天正十三年（一五八五年）に、この塚に犠牲者の霊を慰める六地



蔵塔が建立された。これが、後に宗麟原供養塔と呼ばれ、昭和八年、国の史跡指定を受ける。毎年十一月には供養祭が行われ、大分県からも大友軍ゆかりの人たちが大勢、参拝にやってくる。

### 川南古墳群

24基ある前方後円墳の中で最大級の大きさは、百十三メートルの長さを持つ三十九号墳。ここに上ると小丸川まで見渡せる。こうした前方後円墳と円墳を合わせると、ここには約五十基の古墳がある。

およそ四〜六世紀につくられたもので、なかでも東九州独特の柄鏡型の前方後円墳が多いのが特徴的。葬られている豪族の勢力が最も強かった時期は、三十九号墳がつくられた四世紀末頃だという。

この柄鏡型はだいたい五世紀前半まで続いた。しかし、それ以降は関西圏の形態に変わる。独自の形を維持できていたのは、それだけ畿内の大王に対してゆるやかな従属関係だったことを示し、五世紀中頃からは完全に支配下



に入ったことを物語る。昭和三十六年に国の史跡指定を受ける。



### 空挺落下傘部隊発祥之地

1500メートル滑走路の飛行場と降下場、飛行機の格納庫を備えた空挺落下傘部隊は、太平洋戦争に突入した昭和十六年に創設された。場所は唐瀬原地区。南方戦線での奇襲作戦に備えて、落下傘降下要員の猛練習が始まったのである。



降下場は一日約一万人の作業で五日で完成、飛行場は一年半、すべての完成には約二年か

かり、延べ三十六万五千人の海軍戦術によって成し遂げた。しかし、ここで訓練した将兵のうち、一万二千余名が戦死している。毎年十一月二十三日には、川南町の護国神社で慰霊祭が行われ、全国から大勢の関係者が参列する。この落下傘部隊が給水塔として利用していた大きな



な塔だけが、現在も国立療養所宮崎病院の敷地内になごりをとどめている。

### 後牟田遺跡

7万年前から八千年ほど前にかけて、ここにヒトが住んでいたらしい。この遺跡から分かった。これは非常に驚くべきことで、こんなに遙かに長い期間、一カ所でほとんど切れ目なく、人類の生活の痕跡が認められる遺跡なんて他に例がない。

日本人のルーツそのものに影響する極めて貴重な遺跡といつていい。七万年前の地層からは石ヤリ状の石器が見つかり、三万三千年ほど前の層からは、国内最古級の、石を焼いて蒸し焼きに使ったとみられる礫群や石皿など調理具が出土している。ほかにも約三万年前の人為的に配置された配石遺構、四万年前と五万年前の獣の皮を剥ぐ際に使用したと思われるギザギザの刃のある石器、二万五千年前の狩のための落とし穴など、人類の生活様式の移り変わりが発見できた。

これまで西日本では間違いなく三万年以上前のものと思われる遺跡はほとんど分かってなく、それだけに後牟田遺跡は東アジアの中でとらえる必要があるなど、神秘と不思議が無尽蔵に眠る画期的な遺跡である。



### 川南の魅力

FRONTIER SPIRIT